

■基本テーマ

〈木〉
木と人間のかかわり
TO HAVE, TO BE WITH WOOD

■日本デザイン学会・春季大会準備計画・イベント企画構想

JSD

デザイン学研究

BULLETIN OF JAPANESE SOCIETY FOR SCIENCE OF DESIGN

50^号 1985

日本デザイン学会

第6回春季大会特集

昭和60年6月

テーマ

〈木〉と人間のかかわり

JAPANESE SOCIETY FOR SCIENCE OF DESIGN

PROCEEDINGS OF THE 6TH
ANNUAL SYMPOSIUM OF THE JSD

JUNE 1985

THEME

TO HAVE, TO BE WITH WOOD



日本デザイン学会・春季大会準備計画・イベント企画構想
〈木〉と人間のかかわり展・1985
TO HAVE, TO BE WITH WOOD

■基本テーマ：「木」と人間のかかわりについて

■
「木の文化」コミッティー

■
日本デザイン学会
家具・木工研究部会





目次	Page.
1. はじめに、企画・開催趣旨	01
2. イベントプランニングの背景	02
3. 基本アイデアコンセプト・総合イメージ	03
4. イベント開催日程について	04
5. 日本デザイン学会春季大会プログラム	05
6. 会場展示構成とゾーニング	06
7. Aゾーン基本展示構成	08
8. Bゾーン基本展示構成	15
9. Cゾーン基本展示構成	22
10. 会場平面図	30
11. 準備作業タイムスケジュール	
12. 運營業務・ネットワーク・フローチャート	

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 〔企画趣旨〕	■ Zone	■ Classification
---------------------	-------------------	--------	------------------

高度経済成長によって、日本の産業・社会構造や生活文化は、いちじるしい変貌をとげ、物質的には豊かな時代・高度工業化社会を形成した。しかし、その反面、経済効率や便利さのみでは評価しきれないものが見過され、古い時代のものが急激に消えていった。環境問題やオイルショックの経験を通して、「品質」や「健康」・「食」への関心が高まるとともに、かけがえのない自然・緑への回帰傾向・フィードバック現象も見られるようになった。

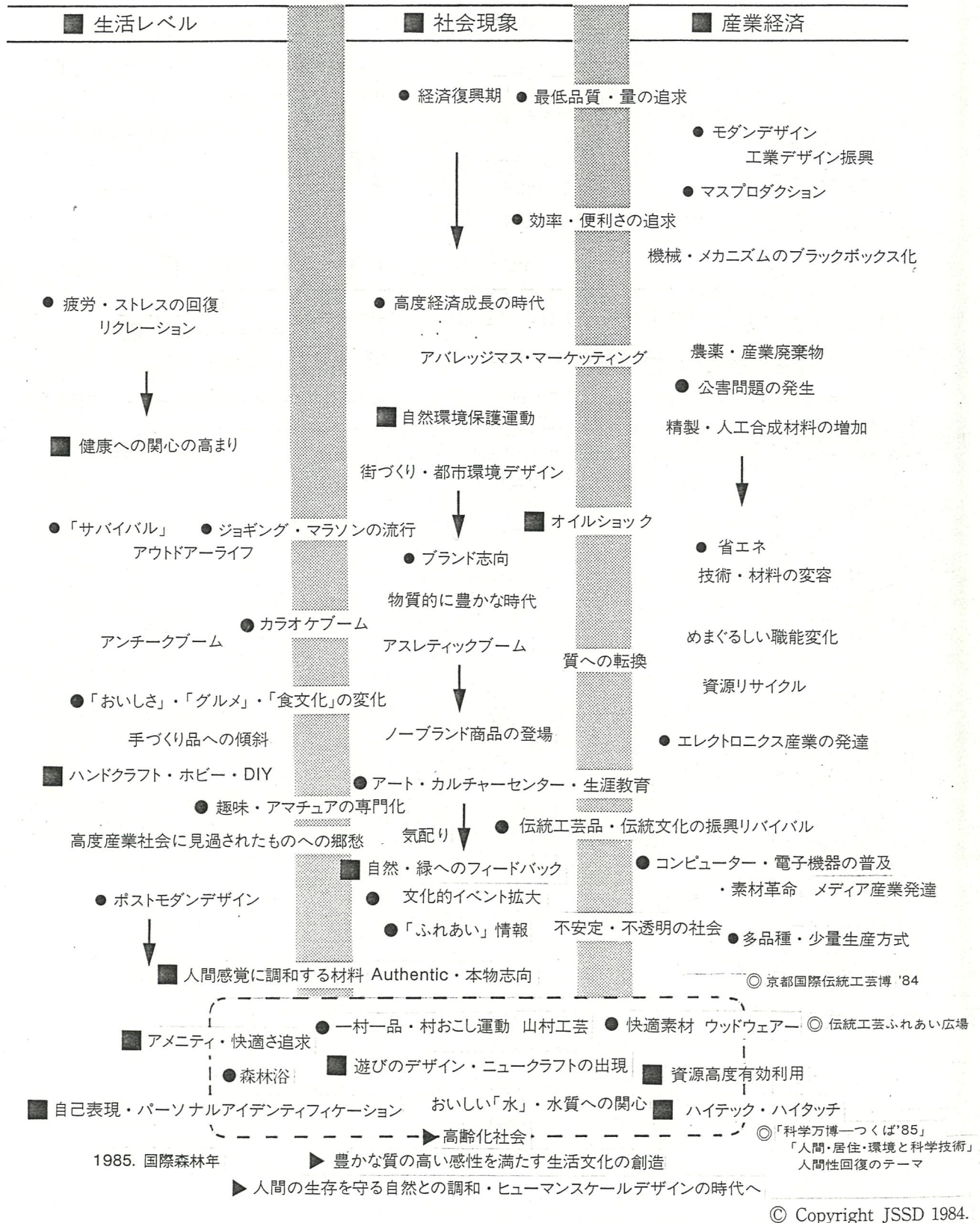
日本文化は、「木の文化」といわれる。古代より、「衣食住」全てにわたり木を利用し、その恩恵をうけ続けてきた歴史の流れの中で、無機質工業化材料に囲まれた現代は、資源の高度利用や人間の感覚・生体としての要求に従って、再び有機天然材料への傾斜をはじめ、確かな本物を求めてその軌道を修正しつつある。人間のバランス複元力として、「木」への再評価・再発見は、電子機器・情報化社会のハイテクノロジーを人間の感性でつつみ、ハイタッチな生活を具現するための必然的な道程として明確に位置づけられるであろう。この展示イベントは、「木」と人間生活の深いかかわりあいをみつめ、豊かな未来デザインの手がかりをめざして企画された。

© Copyright JSSD 1984.

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 01
-----------------------------------	--------	----------------	------------------------	------------

<p>■ <木>と人間のかかわり展・1985</p>	<p>■ Title イベントの時代背景</p>	<p>■ Zone</p>	<p>■ Classification 展示</p>
----------------------------------	--------------------------	---------------	----------------------------

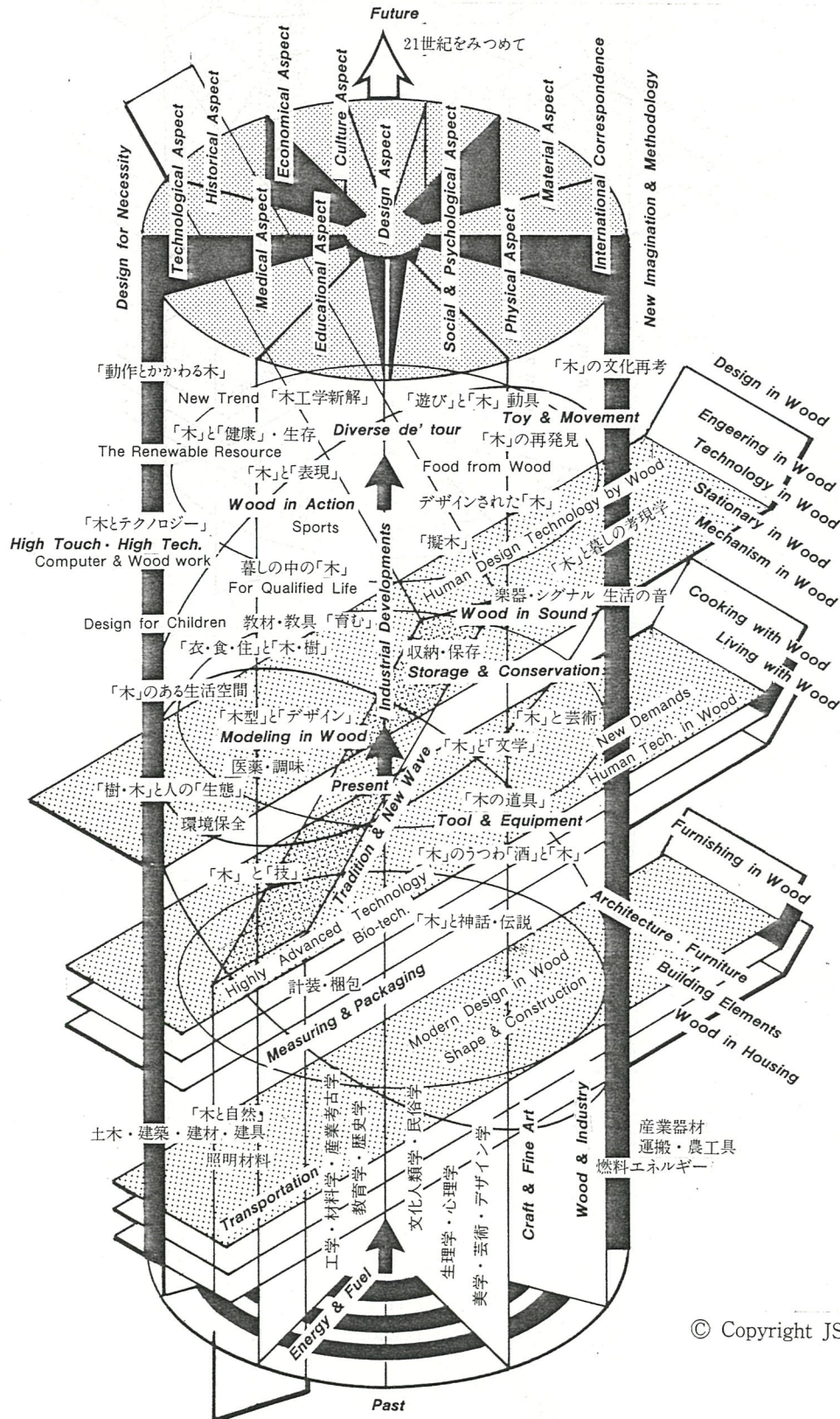
「木」の今日的意義・イベントの時代背景について



<p>■ <木>と人間のかかわり展・1985</p>	<p>■ Title 基本コンセプト・アイデア</p>	<p>■ Zone</p>	<p>■ Classification</p>
----------------------------------	-----------------------------	---------------	-------------------------

このダイアグラムは、過去から現在・未来にわたり、さまざまな視点・角度から「木」と人間のかかわり方、その変化の過程の概要を集約したものである。

■基本テーマ：「木」と人間のかかわりについて
To have, to be with wood



© Copyright JSSD 1984.

有史以来、人間はあらゆる生活・産業分野で「木」を利用し生存を維持し続けてきた。「木」と人間のかかわりは、我国では、水や空気と同様、特別意識されることは少ないが、上図のように衣食住・生活現象全般にわたって大切な役割をにない、基幹要素を構成している。

<p>■ Plan · Design · Produce 阿部藏之</p>	<p>■ Code</p>	<p>■ Prepared for</p>	<p>■ Issued 84. 11. 29</p>	<p>■ P. 03</p>
---------------------------------------	---------------	-----------------------	----------------------------	----------------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 開催日程	■ Zone	■ Classification
---------------------	--------------	--------	------------------

1985

5月					6月		
22日	29日	30日	31日	1日	2日	3日	
[火曜日]	[水曜日]	[木曜日]	[金曜日]	[土曜日]	[日曜日]	[月曜日]	
最終説明会		講演・シンポジウム 京王プラザホテル エミネンスホール	前日 会場装備	■ 日本デザイン学会 春季大会・総会 ○ 大会参加費：会員 ¥3,000 一般 ¥4,000 AM9:00 PM18:00			
催事・イベント	○ 搬入 プラザナード 会場設営	← ① — ② — ③ — ④ → ● <木>と人間のかかわり展・1985 ●				○ 搬出・撤去	
		オープニング セレモニー AM 10:00 PM 5:00 実演	各テーマゾーン内催事 〔計画策定中〕 実演		実演	実演	

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 1985・春季大会プログラム	■ Zone	■ Classification
---------------------	------------------------	--------	------------------

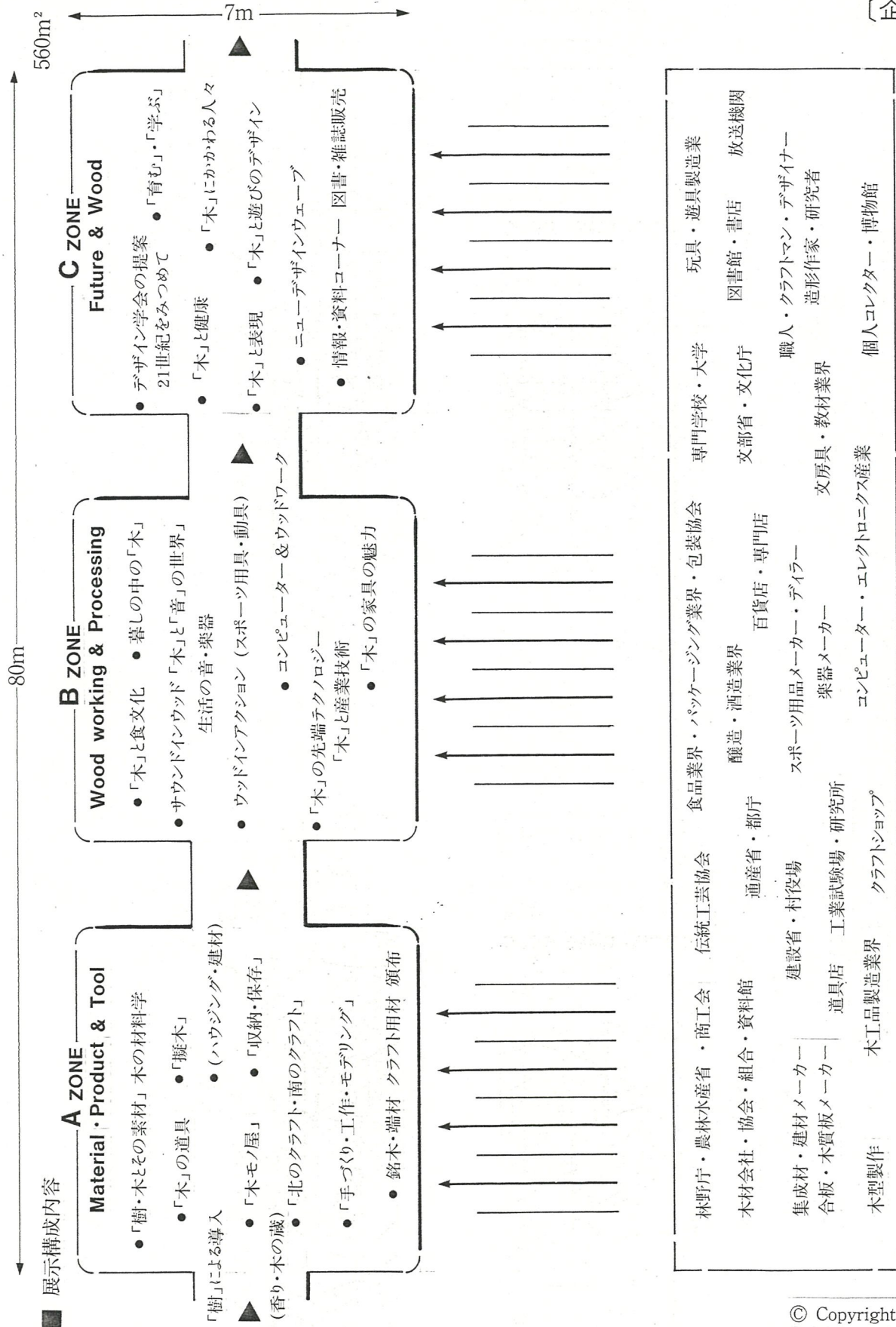
■ 基本テーマ <木>と人間のかかわりについて

● AM	9:00	受付開始
	10:00	開会式
		講演① 「技術史から見た木と人間のかかわりについて」 京都大学人文科学研究所長 教授 吉田光邦 氏
	11:05	
	11:10	講演② 「アメリカにおけるハイテックと人と木について」 プラッドインスティテュート大学 助教授 大館年男 氏
	12:00	昼休み
● PM	13:00	国際学術交流 International Correspondence
		講演③ 「李朝家具の意匠と文化的背景」 梨花女子大学教授 裊 満實 女史
	14:00	
	14:15	総合シンポジウム・パネルディスカッション Part 1. <木> と技術・産業・歴史 Part 2. <木> と造形(文化・意匠・意識) Part 3. <木> と環境(生理的・エコロジー・アメニティ・生態学的) 秋岡 芳夫氏 (共立女子大学教授) 大谷 健氏 (朝日新聞編集委員) 〔パネリスト〕 上村 武氏 (財団法人日本住宅木材技術センター) 北浦かほる女史(大阪市立大学講師) 成田寿一郎氏 (千葉大学工学部助教授) 本間 正義氏 (埼玉県立近代美術館長)
	17:00	複合形式 (質疑応答・討論)
	17:30	閉会式
	18:00	終了後懇親会

○大会参加費：会員 ¥3,000
一般 ¥4,000

<p>■ <木>と人間のかかわり展・1985</p>	<p>■ Title 展示会場ゾーニング</p>	<p>■ Zone</p>	<p>■ Classification</p>
----------------------------------	--------------------------	---------------	-------------------------

〔企画概要〕



● 業界・行政との関係

© Copyright JSSD 1984.

<p>■ Plan · Design · Produce 画部蔵之</p>	<p>■ Code</p>	<p>■ Prepared for</p>	<p>■ Issued 84. 11. 29</p>	<p>■ P. 06</p>
---------------------------------------	---------------	-----------------------	----------------------------	----------------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 展示会場ゾーニング	■ Zone	■ Classification
---------------------	-------------------	--------	------------------

会場の展示構成は、A・B・C 3つのゾーンを設け、それぞれテーマに基づいたイベント内容を設定し性格づけを行った。各ゾーンには、展示内容と直接結びついた物販・実演等を組み合わせ、全体を通じて「木」と人間のかかわりを総合的に認識するとともに、木のふれあいを体験し、木の文化への理解を深めることができるようにレイアウトプランニングを実施する。

■[Aゾーン] では、導入部分に「木の世界」をイメージアップさせ材料と道具〔ハードウェア〕を中心に展開する。木のさまざまな表情や香りを味わいながら、有機質の雰囲気にかこまれつつ、木の姿・実相を知るとともに、木の家・建材・インテリア・収納保存等の天然材のすぐれたテクスチャーを体験・実感する場としたい。

■[Bゾーン] では、産業やテクノロジーに主眼を置き、加工技術・木の物性・製品特性を紹介する。教材・工作コーナーや「食文化」との関係をクリックアップし、更に、音の領域やウッドインアクションとしてスポーツ・動具や先端技術の中の木の高度利用にも着目する。「木」の多面・多用性を注目しながら暮らしの中の諸相を考究するゾーンとしたい。

■[Cゾーン] では、人間感覚に調和する木の重要性を強調し、楽しい遊びのデザインやユニークな造形作品、育児・教育分野での木の役割、及び、木と健康—その快適素材をとりあげる。ここでは、学会提案としてソリッド材を使った学習家具のデザイン開発提案や業界へのアピールを行うと同時に、木に関する情報・資料を提供したい。

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 07
--------------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title 樹と木・その素材「木の材料学」

■ Zone A

■ Classification
展示・実演・物販

「木の材料学」：世界の木材・地球上には、約3000種の樹種があり、有用木材として約300種が利用されている。どこに、どのような木材が産出するかを視覚的に理解できるプロダクトマップを作成する。

代表的な広葉樹・針葉樹の材色・材質・比重〔軽・重〕・木目の特長を実物カット材とともに解説し、構造組織・生態、木取り名称・専門用語を「木の知識」として説明・展開する。また、用途・製品別に選択されている事例を樹種と対応させて展示し、多種多様の「木」に直接ふれて木肌の表情・重さ・香り・木目の美しさ等、木の魅力を十分に実感・体験できる「人」と「木」の触れあいの場としたい。集成材や合板、木質繊維板等は、ソリッド材と対比させて産業資材資源の有効利用との観点で位置づけ、木の使いわけ・製造方法・特長・用途を実例とともに紹介する。

- 世界の木材——「日本の木」「東南アジアの木」「オセニアの木」「アメリカ・カナダの木」「ヨーロッパの木」「アフリカの木」「ブラジル・南米の木」「中南米の木」「ソ連の木」(南洋材、北洋材、etc)
- 珍しい木 「貴重木」「世界で一番軽い木」「世界で最も重い木」「銘木・美しい木標本」「水に浮く木・沈む木」
- 製品・用途別 建築・建材用材・建具造作材・指物家具用、刳物・履物用・彫刻用・楽器用・土木用・船舶用・樽材・酒造用・スポーツ用具用・道具器具用材・宗教具用・包装材・紙パルプ用・医薬用・計装用
〔適材適所〕
- 工業生産加工材 集成材・合板・ハードボード・MDF・チップ〔新しい材料開発〕 ボード・複合板。
- 「各県産の木々」「照葉樹林文化の木」「ブナ帯文化の木」

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「木」と道具

■ Zone
A■ Classification
展示・実演・物販

人間は、道具を考案し、様々なモノを作り出している。刃物は、木と結びついて機能性を高め、生産を拡大しあらゆる産業分野で発展した。民族や文化によって木の使い方・形も変化に富んでいる。工具・道具には合理的なデザインで美しいものが多い。木は加工性が良く、熱や水に対しても変化が少なく生産工具・調理具に使われるが、衝撃を吸収したり手の汗や水分を吸収し沁りにくいという性質を備えている。日常あまり意識されずに使用されている木の道具たちの姿をデザイン上からみると、ユニークで洗練されたフォルムが浮び上ってくる。

「切る」「削る」「割る」「打つ」「練る」「塗る」「組む」「曲げる」「穿つ」「磨く」「洗う」「彫る」「掬う」「測る」等の作業動作とのかかわりから、従来のように職業別に扱うのではなく、新しい視点で木の役割・工匠のノウハウ・テクノロジーをとりあげる。

- 木のハードウェア・ツールデザイン
- 木の道具・考現学〔実演・展示〕
- 世界の木工具・和洋比較
「押す工具と引く工具」
- プロの道具・伝統の道具
- 新しい木工具・調理具・新道具考
- 生活を支える木の道具

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 銘木・端材・クラフト用材頒布	■ Zone A	■ Classification 物販
---------------------	---------------------------	-------------	------------------------

通常、専門家が使用する良質材・銘木・貴重材は、少量・端材でも一般の店頭では入手しにくく、専門店・DIYショップでは高価でサイズも限定されている。一方、生産現場では、落し欠点材・端材は相当量処分している為、大手建材・合板メーカー・製材木材会社・家具工場から収集して提供頒布する。この種の企画は、伝産展でも人気が高く、好評で、多数の入場者・動員を実現する誘因にもなっている。この他、プレカットして樹種見本やツキ板ファイルや、円柱・角・三角・球などの基本原形加工材も積み木・遊具などに利用できるほか、色調のちがい・軽重・用途など専門家が解説を行えば木の知識を深めることにつながり効果的な催事となる。

提供協力依頼先事例

1. 銘木落し・端材(有償)→「北三」(株)「江東銘木センター」
(ブラジル・アフリカ・東南アジア材)
2. 建材・合板メーカー・集成材メーカー
→エンドカット材・芯材・落し・欠点材・etc.
3. 家具・木工メーカー
→残余材・短尺材(天童木工・山品木工・YAMAHA
・インテリアセンター、etc.)
4. 著名産地・工芸品加工材の半端材・桐材・南洋材・彫刻材
針葉樹・広葉樹

無料配布は会場での混乱・運賃・諸掛り・経費等を考慮すると売り上げの一部をチャリティーとしてもよい。

物販担当は、協賛会社スタッフ(2~3名)を配置。

包装・袋等は、協賛スポンサー等からの提供〔広告入り〕を依頼する。

<木>の材料展示と複合・関連させて実施する。

■ Plan・Design・Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 10
-------------------------------	--------	----------------	------------------------	------------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「擬木」	■ Zone A	■ Classification 展示
---------------------	--------------	----------	---------------------

現在、新建材をはじめ専門家でも見分け、識別しにくいほど巧妙にコピーされた擬木商品が多量に生産されている。擬木は、良質天然木材の減少により代用・代替素材として開発されたものであるが、本来機能的には必要性のない工業製品にまで執拗に木目模様を入れデザインされるのは何故か？ 木目模様を表面化粧に使うと商品を売り易いと言われているが、プラスチック成型品・コンクリート・鉄板にまで印刷・転写されたさまざまな身の回りの実例・製造技術を取りあげ、「木」に対する人間のイメージ・意識・造形デザイン感覚との関係をクローズアップする。合成・印刷された「木目」には木材固有の吸湿・低熱伝導性などの有用な特性はないが、見かけ上のテクスチャー (Visual Texture) が人間の感性・感覚にどのような影響を与えるのか・物性上の(メリット・デメリット)を調査・研究するイニシエーションの契機としたい。

- 「どちらが本物？」見分け能力・テスト。
建材・シート・精密成型品をオリジナルとコピーと対比させて並列展示する。
- 擬木製品一覧：合成木材・プリント合板と印刷紙・塗装・複合成型品・コンクリート柱・ベンチ・スチール転写材その他、建材・家庭用品・家電製品。
- 材質・製造方法、特長等を解説。

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 11
--------------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「木モノ屋」	■ Zone A	■ Classification 展示・物販
---------------------	----------------	----------	------------------------

伝統的なものからモダンデザインまで「木」の商品は多種多彩であるが、「金物屋」という業種・商売があるのに何故か「木物屋」がない。「木」は、高度工業化社会の中で、ファッション性の高い自然志向の新鮮な未来商品としての可能性をもち、若い人々のライフスタイルにも適合しバリエーターに富んだ商品が増えつづけており「木」だけの商品を扱うショップ・業態形成の動きも活発である。新しい生活デザイン産業の一分野として注目するとともに、日本各地のクラフトマン・デザイナーの作品や世界各国のニューウェーブを紹介するとともに展示即売する。

- 木のモノ「ウッドライフショップ」
「ウッドウェアギャラリー」
- 木からのメッセージ
- 主なデザインプロダクト：遊具・オブジェ・文房具・小物・アクセサリー類・家具・テーブルウェア・デスクウェア・人形・調理具・その他創作物。
- 別添 作家・作品集

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 12
--------------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title 「手づくり・工作・モデリング」

■ Zone A

■ Classification 展示・実演・物販

成長期・幼年時代に必要な手先の訓練・刃物体験・ものづくりの喜びを体得するには、「木」の工作・造形が最も適している。削る・切る・曲げる・接合・組立てる一連の基本動作は、子供の触感や個性を育み、創造性を培う。組立てるだけのプラモデルや加工度の高いキット商品だけでなく、粗素材の自由な使いこなしや遊びと融合させた手指の機能訓練・自然のテクスチャー体験の重要性を訴求し、創造の楽しさを実演展示・実習の場を設置する。「鉛筆の削り方」「箸の使い方」「紐の結び方」「ナイフ・カッターの使い方」等のパンフレット配布を行うとともに、各種材料・模型・工具類の物販を行う。

- 割箸細工のいろいろ [EX. 輪ゴム鉄砲]
- バルサウッドクラフト
- 「箸を自作する」
- 竹トンボ・帆船・モデル
- ライトプレーン
- 立体凧
- シナ合板ヌキ型モデル
- ジグソークラフト
- 木製建築模型
- 二次加工品・木地物

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「収納・保存」

■ Zone

A

■ Classification

展示・実演・物販

保存用の箱体で最も適しているものは桐箱とされ、経験的に使われてきたが、美術品や古文書等の文化財及び衣類の収納・保存に桐材は、すぐれた性質を発揮している。また、金庫や蔵の内装にも桐・楠・ヒバ材が用いられ構造やデザインもいろいろな種類がある。

箱づくりや桐箆笥の伝統は、職人の技術によって守られてきたが、防虫・防カビ・温湿度変化の面から科学的にとらえ実証し、「木」の性能・性質を考える。三井家文庫のように、江戸時代の古文書が紙の風合いをそこなわず完全に保管されている事例[photo]や、箱づくりの実演・展示を行うとともに、現代の書籍・フィルム等の保存の技術・ノウハウを結びつきたい。

- 各種桐箱・桐タンスの種類紹介展示。
- 茶箱・金庫・手箱・木箱の展示・即売
- 保存箱製作・実演
- 木の蔵 実例写真
- 保存と収納の科学セミナー（計画中）

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「木」と食文化

■ Zone

B

■ Classification

展示・実演・物販

食生活の中には、様々な木の性質・効用を生かした使い方・習慣がある。食品の加工・保存から調理・盛りつけ・取り合せ・器等、まで巧みに利用されており、その実相は、バリエーションに富んだ世界である。更に、日本人は「目」で食べると言われるように、「木」を美的に取扱い、食品・食事を魅力的にみせるというビジュアルな演出がされ、木に対する日本人独特の洗練された感覚が生きてきている。

「木」は上品で高級感・清浄感を与え、同じものでも器によりおいしく見えひきたたせる。また、豊かな充実感・新鮮な手づくりイメージをかもし出す。木の吸湿・脱湿特性を利用した器具や型板、醸造・発酵の分野など「食の文化」の中で木のすぐれた役割を実物商品事例・実演等を加えてプレゼンテーションする。

- 食品に使われる「木」→かまぼこ板・漬物・燻製
- バイオテックと「木」→酒造・「日本酒と杉」「ウイスキー・ワインとオーク材」「樽づくり実演」「味噌・醤油」「漬物」
- 「クッキングと木」「組板と料理道具」「のし棒・すりこぎ・しゃもじ・練棒・へら」
- 「寿司と木」「和菓子と木型」「茶道具と木」
- 「食にかかわる木の器」「飯櫃・箸・碗・膳」
- パッケージングデザイン「メロン・羊羹に桐箱」「カステラ・和菓子に杉箱」「カマボコ・焼板」「ウイスキーに樽の木箱」「素麺に松の箱」「折箱・経木」
- On the Table: 大きな一枚のソリッドテーブルに日本各地の木ーブルウェア・木の器と使い方を組合せて展示する。本物の木の魅力とデザインの紹介。
- 「木炭のいろいろ」用途別・産地。

© Copyright JSSD 1984.

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title 「アクション イン ウッド」

■ Zone B

■ Classification 展示・実演・物販

「木」は、静的(static)なイメージが強いが、スポーツや、アクションメカニズムの中では、ダイナミックで意外な表情をあらわす。弾性限界まで追求されるバット・スキー板などの用具は、軽さや人体とのなじみ、人間工学的条件と物性・加工性を十分にひき出した木のテクノロジーの結晶である。強度・形状・デザイン・音に至るまでさまざまに工夫された「動具」は、きびしい性能条件を満たした「用と素材の極限のフォルム」として完成された美しさがある。「木」に対する新しい見方やプロフェッショナルの道具観・製作過程を紹介するとともに製作者の視点からデザイン・テクノロジーの魅力を語る。

〔製作実演・加工見本等の展示〕

- バット→「プロ野球選手のバット製作とデザイン」
・「プロ用道具の世界」
- ラケット〔テニス・バドミントン・卓球〕
- 弓・アーチェリー
- ゴルフヘッド
- ゲートボール
- クロスカントリー・スキー用具
- その他のアウトドア・道具類
- ボウリングピン・フロアー
- 銃床・台座
- 武道具・ビリヤード
- スポーツフロアー（体育館床・内装シスネム）
- 体育器具・器材
- その他遊技台・ハンドル類
- 歯車・機械部品・ムーブメント

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title 「サウンド インウッド」

■ Zone **B**■ Classification
展示・実演・物販

現代社会は、さまざまな騒音・ノイズ・振動にかこまれている。「木」の音は、楽器をはじめ、道具やシグナルに用いられ、その音響は人間の聴覚にマッチし快よくひびき感動させる。金属の扉と重厚な木の扉では全く質の異なる音の様相を示すが、プラスチック・セラミック類の無機質材の発生音とは対照的に、木の固有音はノイズになりにくい。天然の生物材料のもつ物性・音響特性を工学的に解析するとともに、食卓・食器・組板の音など身近な「音の本質」について実験分析データとともに造形材料としての木の優れた物性を見つめる。

- 木琴・拍子木「樹種のちがいと音のちがい」テスト・実演
- 「ソリッドテーブルの音」「フラッシュ構造・化粧板の音」波形測定
- ドアノッカー音のいろいろ比較
- 建具の発生音と生活雑音について
- 和楽器〔琴・三味線・琵琶〕の音色のちがい。実物・製作工程紹介。
- 洋楽器〔ピアノ・バイオリン・ギター・木管楽器の音特性比較〕
- ピアノ構造分解・アクションパーツ・響き板展示
- バイオリン製作実演
- 「太鼓づくり」日本の「音」と「木の仕事」
- オーディオキャビネットの設計と「音質の関係」
- 鏑矢と合図
- 「木の床の歩行音・衝撃音」「VTR・テープサウンド試聴」
- 「木」と音の造型

© Copyright JSSD 1984.

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「木」と産業技術

■ Zone

B

■ Classification

展示・実演・物販

昭和初期まで、木材は主要産業機材として幅広く使用されていたが戦後は、鉄・アルミ・プラスチック等の工業材料にとって変わり需要が減少した。しかし、産業用資材として、「木」の活躍する場所も多く、工業デザインに欠くことのできない試作モデリング・木型製作・枠材・計装具・シャトル・ハンドル・梱包パッケージ・建材・土木材料・製紙など多方面に活用されている。各業界における使われ方・事例を紹介するとともに、近い将来石油が枯渇する際の安定資源として木の重要性を強調する。また災害やアクシデントの発生時に、電気がなくても手加工作業だけで多様な「もの」を製作し生活することが可能であり、その多用途・転用性・燃料エネルギーの面からも人間が創り出せる循環有機材料として基幹有用素材であることを位置づけたい。

- 木型・模型・型枠・巻ワク・木製パレット
- 計装具・測量具・定規・パッケージング
- 調理器具・各種樽材・研磨材・マッチ
- 農工用具・ほだ木・木粉・チップ
- 原子炉カバー・化学薬品・香料
- 蠟・漆塗料・工業用木炭
- 衣料・染型板・版木

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「木の家具の魅力」

■ Zone

B

■ Classification

展示・物販

「木の国・木の家具・木の文化」——自然と住まいをむすぶ——

人体に身近な物には、安全で使い心地の良い・適度の軟らかさ・暖みや滑らかな仕上面・感触のすぐれたものが必要であるが、木の家具には金属やプラスチック等の無機質材にはない人間の感覚に調和する性質がある。ここでは、木目や構造など材質特性を生かしたデザイン事例・専門家が選びぬいた品質のすぐれたものを集め、座り心地・使い易さ・木肌の感触・材質感(テクスチャー)等を直接体験できる機会としたい。

〔材料別事例〕

- 樺の家具
- 檜の家具
- 桐の家具
- 桜材の家具
- 栗の木の家具
- 南洋材の家具
- 北洋材の家具
- チークの家具
- マホガニーの家具
- オリーブの家具
- ウォルナットの家具
- メープル材の家具
- ベニマツの家具
- ローズウッド・ファニチャー
- 柴檀・花梨・黒檀・唐木家具
- 樺材の家具
- 白樺材の家具
- ブナの家具
- 檜の家具
- 杉の家具
- 栓の家具
- 槐の家具
- タモの家具
- 唐松の家具
- 松材の家具
- トネリコの家具
- くるみ材の家具

〔加工・構造別〕

- 曲木の家具
- 成型合板の家具
- 合板の家具
- 寄木の家具
- 集成材の家具
- その他

〔材種・加工方法・デザイナー・メーカー表示〕
〔セレクションガイド・別添〕

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title 「木」の先端テクノロジー

■ Zone B

■ Classification 展示・物販

高度成長経済・工業化社会で「木」は、物性上、金属や合成化学物質に劣るとされ、需要・評価が低減してきたが、近年、産業界で再評価・見直し・フィードバック現象がみられる。鉄は木よりも強いとされているが、火災時には、逆に、集成材梁の方が構造体として残存し消防上安全であるという実験研究が確認され建築構造学・法規の修正が行われている。また、最先端産業の分野でもバイオテックと「木」が結びつき、森林浴・資源有効利用・山村工芸運動・観光開発・村おこし事業など「木」をテーマにしたさまざまな試みが行われている現状である。新しい可能性を触発する視点で物販と展示を行う。

- 「集成材梁は鉄骨より火災に強い」
建築研究所実験データ（写真・実物展示）
〔→Safty & Beauty Construction〕
- 集成材工法の紹介・PR
小径木の有効利用と集成材見本の展示
- 複合板・建材の開発例
- 木の無公害プラスチック開発
- 香料・化学物質抽出
- 浴槽剤利用「檜」
- 飼料「おがっ子」
- 燃料

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

コンピューター&ウッドワーク

■ Zone

B

■ Classification

展示・実演・物販

木工・家具産業にも、コンピューター制御のNCルーターや塗装ロボット等の自動加工マシンが導入されるようになった。伝統熟練職人の代わりに新しい技術職人が誕生して木工のイメージも変容してきている。産業技術とデザインの面から、木と先端テクノロジーのかかわり・新しい造形の可能性を紹介する。

 CAD. CAM.

 NCルーター加工について (VTR)

 パソコン利用による複合傾斜角加工

 コンピューターグラフィック「樹」デザインパターン

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「木」と「遊び」

■ Zone

C

■ Classification

展示・実演・物販

遊具や玩具は、子供の自由で豊かな感性や創造力を養い、運動能力の発達をうながす。面白さ・楽しさの中に集中して、想像力・思考力・構成力・識別能力を触発させながら学び成長して行く。大人も「遊び」によって精神的ストレスや心を解放したり、自己表現を行いゆとりある生活を充実させている。また、最近では、造形家・デザイナー・クラトマンが手がけた遊び心あふれるものやユーモア・ウィットに色どられた作品の展示会や教育玩具のデザイン開発が盛んに行われるようになった。これらの、ニューデザインウェーブをとらえ、伝統的な玩具・遊技具とともに、「遊び」というテーマで通観し、「木」と人間の深い密接なつながりを明らかにする。〔製作実演・文献紹介・販売・遊びの広場設置〕プラスチック・キャラクター・メカ商品があふれている現在の「おもちゃ屋」へのアピールともなるであろう。

- 世界の木のおもちゃ
- 伝統木地玩具・木肌玩具
- 遊技具・ゲーム・碁盤・将棋
- 木のパズル・組木・知恵木・知恵板
- 教育玩具・遊具
- ニューデザインコーナー
- からくり・オブジェ・おもしろ気[木]分展

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「育む」・「学ぶ」	■ Zone C	■ Classification 展示・物販
---------------------	-------------------	----------	------------------------

子供の成長期には、「もの」づくりや道具を通じて実際に体験し知識や豊かな感性を身につけることが大切であるが、自然とのかかわりが人格形成やものを見る眼に最も大きな影響を受けるといわれている。子供の成長を助け、加工しやすく安全で身近に入手できる素材として、「木」は教材・教具・文房具等に活用されているが、近年、校舎がコンクリートやアルミサッシになり、学校用家具・インテリア・給食器等も新建材・プラスチック製品にとって代わり、「木」や「木質材」が少なくなってきた。人の心や感性を育む木の重要性・素材体験を再考するとともに、「木のソリッド材の学習・勉強机」のデザイン提案や「木の教育具」を展示・構成する。

- 木の学習机・ニューデザイン開発提案・研究レポート
- 木の床・木の廊下の提案・床貼りかえ事例
- 「義務教育用机は全て木製とする規格」デンマーク
- 木の給食器デザイン開発例の紹介
- 木のイラストブック・絵本

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 23
--------------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985

■ Title

「木」と「健康」

■ Zone

C

■ Classification

展示・実演・物販

木の住いは、休息性が高く、寛ぎや安らぎを与える。木の家具やインテリアは人を落ちつかせ、疲れを休めてくれる。これは、木が紫外線をよく吸収し、光を乱反射するため、眼の疲労が少ないことや熱伝導率が低く、適度の保温性をもつため暖かさを感じさせ、同時に吸湿・脱湿作用で室内の温湿度調整がなされる為である。「木」に「人」が組み合わされると「休」となるわけである。また、木の床が歩きやすいと感じるのは、適度な硬さ・摩擦係数とも関連している。木の香りは、潤いをもたらし、薪ストーブは、体の芯まで暖まる良さがあつた。木が生物材料であり、人間の皮膚構造と相似していることや感触の良さ・メディカルな効能など人体に馴染む「ハイタッチ・快適素材」として健康という観点から木の特性を考究する。

- 木の床・木のじゅうたん、熱伝導率実験
- 快適材料学
- 木靴・下駄 履物の科学
- 木と光・照明
- (木と人間工学)・肩たたき・新健康用具
- 香りと木
- 木の風呂・桶・器
- 木のサッシ・木の建材
- 木のワークステーション
- 樟脳・染料・医薬

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「木」と表現	■ Zone C	■ Classification 展示・物販
---------------------	----------------	----------	------------------------

日本の暮らしの中で「木」は、さまざまな場面に登場し表現イメージとして形象化されてきている。例えば、俳句や小説、文学の領域の中で表現された木の表情・姿は実に多彩で美的感覚と深く結びついている。芸術の分野でも、信仰の世界においてもイメージを形象化させる場合の媒体として多用され、精神的な存在としての大黒柱という言葉や表札・看板・棟札・お守り・印章の類まで木への特殊な思い入れ・親密性が見られる。衣食住全体の中で、動作・行為とかかわる木のものの意味を考察し「木」に託されたイメージ・心象及びその造形を木の文化としてとらえ、収集展示する。「木目」は、自然が描いた芸術である。

- 樹名「木偏の文字」・「キ」のコトバ〔気・木・樹・貴・季・希・喜・奇・器・祈・機・規・記・起・軌・輝・鬼・危〕
- 樹名総覧〔記念品〕紙刷物・布染物
- 動作・「祈る」ための「木」「祭る・装う・印す・伝える」・化粧道具 祭具・儀式用具等。
- 小説に表われる樹・木
「楡家の人々」「樅の木は残った」etc.
- 額装・短冊板
- キャンバス木枠・スタンド
- 木の造形

■ Plan・Design・Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 25
----------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「李朝の木工」	■ Zone C	■ Classification 特別展示
---------------------	-----------------	----------	-----------------------

記念講演内容と関連させた李朝木工の作品〔簞笥・櫥・半開櫃・文厘・四方卓子・盤〕など代表的なものを集めて展示する。

日本における李朝木工研究の現状や 所蔵美術館・民芸館・コレクター等の紹介及び、李朝木工に関する文献資料の特別展示を行う。
〔International Correspondence・比較文化デザイン研究・木材の使いこなし等の視点で取扱う。〕

- 韓国の民家・インテリア・博物館等の収蔵品の写真資料
- 実測図面・金具・解説
- 「李朝木工家具の美」翻訳出版〔計画中〕
- その他・研究資料・既往の文献

■ Plan・Design・Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 26
----------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「情報・資料コーナー」	■ Zone C	■ Classification 展示・物販
---------------------	---------------------	----------	------------------------

「木」「木工」に関する内外の情報・資料の紹介を行い、専門家から
実用入門書まで、一同に集めて展示する。

[木に関する情報コーナー]

- 「木に関する100冊の本・和洋100選」
- 明治から今日まで発行された「木」に関する文献リスト・JSSD編集
- 「木」に関する研究機関・専門教育施設・学術団体
- 「木のモノ」を収蔵する博物館・資料館
- 「木を体験しふれあう工房・ショップ」情報
- 「木工・家具の本」和洋図書・雑誌・紹介・販売
- 著名メーカーカタログ・PR刊行物
- その他のインフォメーションサービス

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 27
--------------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title 「木」にかかわる人々	■ Zone C	■ Classification 展示
---------------------	--------------------	----------	---------------------

この展示会・イベントにかかわった全ての人々・参画スタッフ・協力者・企業・団体等を一同に紹介し、メモリアムとして出口附近にパネル表示する。顔写真・職業・専門分野・経歴・所在地を総覧できるクリエイティブ・インフォメーションを準備するとともに、より高次の展開につながるアイデンティフィケーションメディアとしてガイドブック等に記載する。

□ 対象となる人々

1. JSSD会員・主催者
2. 催事スタッフ関係者
3. 企画・協力者・研究者・研究機関
4. 職人・クラフトマン・作家
5. 企業・協賛団体
6. ジャーナリスト・出版関係
7. コレクター・資料館・博物館
8. その他の関係者

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 28
--------------------------------	--------	----------------	---------------------	---------

■ <木>と人間のかかわり展・1985	■ Title デザイン学会提案	■ Zone C	■ Classification 展示・実演
---------------------	---------------------	-------------	---------------------------

この「木と人間のかかわり展」イベント全体が、日本デザイン学会の提案であり、問題提起とメッセージであるが、学会活動をPRするため、会員作品の展示や産業記念物木工部門全国調査研究プロジェクト等の活動内容を紹介する。また、この「木」に対する取り組みは、地球規模の業際・学際的な幅の広い内容であり、他の学術団体研究機関・業界との交流や関係づくりを計り、継続的に活動を展開したい。

■ Plan · Design · Produce 阿部藏之	■ Code	■ Prepared for	■ Issued 84. 11. 29	■ P. 29
-----------------------------------	--------	----------------	------------------------	------------